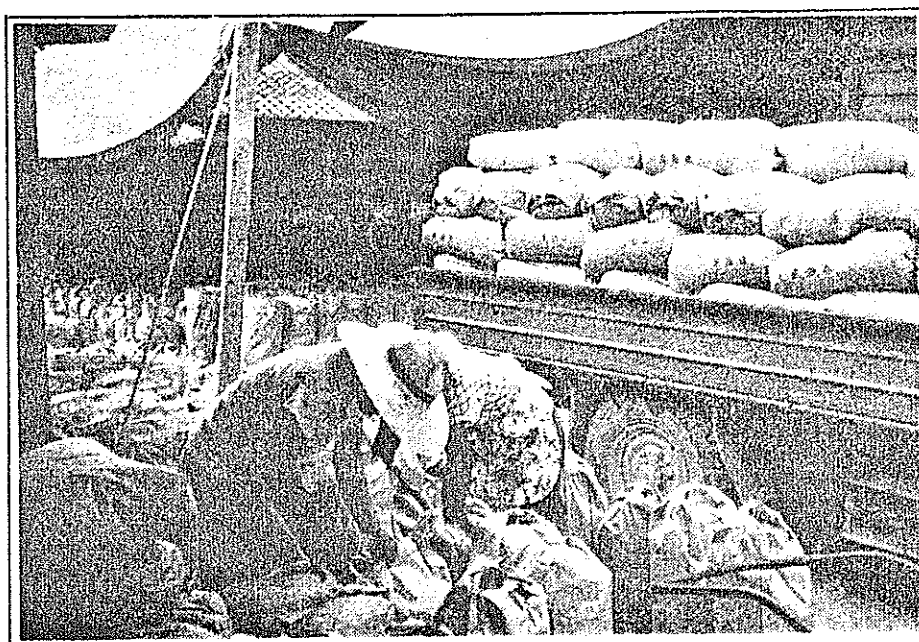
THE KOHO NANKOKU
広報ナンコク

市の動態

人口	43,353人	男 20,917人　女 22,4[illegible]人
世帯数	11,068戸	
本庁	5,872戸	22,240人
三和	2,210戸	9,334人
領石	1,444戸	5,577人
岡豊	839戸	3,337人
十市	709戸	2,864人

第47号
（毎月1回　全戸配布）
編集発行　南国市広報委員会
事務所　高知県南国市役所内（電話2111番）
印刷　川北印刷工業KK（電 2379番）



米出廻る　長雨で減収が見込まれていた本年の早場米も、その後の天候の回復とともにイモチ病などの病害からややもち直り、無事収穫を終った。しかし、収量は少なく反当4～5俵程度のものがザラといわれる。　―日章農協で―

あすの社会を明かるく

母親と青年のいい分

家族会議で　たのしい話し合のなかから　学習を

自分たちの自主性を主張する青年たちと、身近に身守つてゆきたいと希う親たち、これはものの考へ方の違いであつて現在、お互の置かれている環境と相互の理解しようとする度合によりまがりなりにも平衡が保たれている。このほど市の連合婦人会と、青年団の人たちが、〃公明選挙をどのように進めるか〃〃親のいい分、青年のいい分〃をテーマーにお互のいい分をそれぞれの立場から出しあつた。

▼政治は○○である、といっても勉強不足で人をみる目がとぼしい、まして政治は政党に左右されやすい、政治からボスを除くべきだ。▼政党が国民のためのものでなく政党員のもののためにあるという感じが強い。▼地元の行事を政治的に利用しようとする立候補者自体にも責任はあるが、候補者の弱味につけこむ選挙民にも責任がある。▼選挙屋といわれる人の暗躍は、候補者も選挙民も迷惑している。ブローカーの追い出しは必要だ。自分の要求や、願いを誰れが受けとめてくれるかを知るべきで、それが勉強となり、みんなの学習となる。▼婦人は学習の機会が多く成人の男子はその機会に乏しい、婦人の政治意識は高まっている。▼といって、投票の数字のみで、どれだけ自主性があったものか？その分析が大切ではないか、いまの青年は、ボスににぎられていないし、そんな気持ちはもっていない。青年は自主性をもっていても、婦人は主人の意見に従う人が多くはないだろうか。▼家庭内での統一はむつかしくても、お互の意見を出しあう家族会議や、家庭学習は大切である。▼議会をかこむ会や、市政を知る会なども、市政を知る上にも必要なことだ。▼青年や、婦人から立候補者に対する公開質問状を出し、広報紙にのせるなど意見の公開をしてみたい。▼投票や、公明選挙の呼びかけなどは、婦人や青年が協力しあかるい選挙ができるよう推進してゆきたい。

＝まとめ＝
▽啓蒙活動の実施
△立候補者に公開質問状を出す
▽市政をわかるよう広報活動をしてもらう
▽家族会議による政治学習
▽市政討論会を開こう
▽マスコミを利用して、公明選挙運動の様子や、広く一般に知ってもらう

ある時期を別居で　一つ釜のごはんを

青年　母親

▼二十才を過ぎても説教せられる、話しは解っていても素直にうけつけれない気持ちになる、いつまでも子供扱いされたくない。▼親は不必要な干渉をさけ子供の願いを堀りおこす気構えであってほしい、ブレーキ役でなく子供と友達同志のような気になれないものか。▼子供のいうことにそれはいけないといい後で反省している。堀りおこすようなことは却って反感を買う結果にならないものか。▼自由にすれば、自由にし過ぎるといい、しめれば叱られ、むかしのことを言うとまた叱られる。▼体験のはなしは有難いがむかしといまの違いを理解して、お互に話しを進めることが必要だ。▼結論をすぐ出すような母親より、相談相手とし、しんみり考え研究してやる親でありたいもの……子供をいつまでも子供と考えず子供の人格、嫁の、姑の人格を互に尊重しなければならない。▼別居してみて始めて親の愛情はわかるものだ。母親の愛情は子供とは決して離れないと思う、反抗はしてもいつかは母親の愛情のもとにかえるはず……。▼家庭的に別居できない場合がある。とくに片親の農家にあってはなおかしい。▼一つ釜のごはんを食べるところに愛情が湧く、義理をたててくれる嫁に愛情が湧くものだ、自分の体験からいっていろいろの点から同居の方がよいと思う。▼若い人たちは一時的の別居をのぞんでいる。とき折りの別居により新しい愛情のわく例もある。▼若い人もいずれは老後のくるのを考え、家庭の日のくるのを考え、親子の関係を処理して頂きたい。愛情の中から親子の関係を話しもしてもらうという自然的なつながりでありたい。

親にも交際を

▼私たちの時代は結婚を前提とした恋愛であった。いまの人は恋愛と結婚を別々に考えているように思う。恋愛をする場合、互に責任を持ち合いみんなから祝福される相手を選んでほしい。▼親に祝福されるのは、親が気に入った場合であってみんながそうなるとは限らない、親に干渉される結婚はしたくない。祝福されるのではなく、祝福してほしいし、祝福すべきではないか。▼本人は自信があって決めても、親には一抹の不安をもつものであり親の気持ちは割り切れない。▼自分が気に入って必ずこの相手と決めたら本人は相当の責任を感じ、その人なりの幸福をつかんでいると思う。▼子供が恋愛をしていると、親は相談相手となる態度で、静かに見守ってやるべきである。また、自分だけの相手であるから自分のものとしないで、親を相手に近づけてお互にみんなの愛情が育つように、親も交際の範囲に入れてほしい。

噂さ話しはやめて!!

▼婦人と青年が、手をつなぎ若い社会的な仕事も学習もしてゆきたい。▼婦人の特色として噂さ話がありすぎる、活発な意見が、適な形として批判の言葉と受取られるおそれがある、女子青年に逆路のかかった例もある。▼学習の場として取り上げてやるべきで、井戸端会議の種となることのないようにしてやるべきだ。▼誤って伝えられるのは日本語の欠点で、助詞の使い方で全然意味の違うこともある。言葉の大切さを勉強すべきだ。

＝まとめ＝
○母から、嫁は気立てのやさしい人を。
○妻を選ぶ場合、ある程度本人にまかす。
○家庭の中で家族会議をする、夕食のもち方などたのしい話し合いの場となるよう工夫する
○ある時期には遠くはなれてゆくが、子供の気持ちとなって相談相手になる母親になってほしい。

結婚と恋愛
母から……みんなで祝福される結婚を、
青年から……子供の立場になって祝福を。

別居について
母から……同居をのぞむ
青年から……一定期間の別居を……（親の資力、生活様式により別居はむつかしいこともある）

孝行について
法律や義務からでなく、親子の愛情で解決したい。

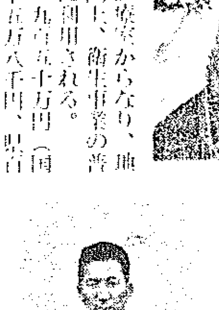
同和対策事業　工費九百万円で　中央隣保館建築

野中地区

本年度から三カ年にわたる同和対策モデル事業の指定を受けている市では、本年度事業の一つである、中央隣保館を野中地区東田間に建設することとなり、この程その地鎮祭を行なった。同隣保館は鉄筋二階建て延べ四百十二、五平方メートル、会議室、ホール、社会教育教室、診療室からなり、地区民の向上、衛生事業の普及などに利用される。工費は、九百五十万円（国四百九十五万八千円、県四十八万円、残り市費）で、工事請負は大産建設があたり、完成は来年二月末の予定。なお本年度は、このほか公営住宅、共同浴場などのモデル事業が実施される見込み。（写真は、鍬入れをする竹内助役）

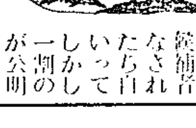
浜田先生（日章小）全国優勝

＝教職員剣道大会＝



第五回全国教職員剣道大会は、八月二十四日大阪市中央体育館で開かれた。大会に出場した日章小学校の浜田寅八六段（四十二歳）浜田は、個人小学校の部で初の栄冠を握った。しかし、団体は惜しくも優勝の栄冠に敗れて三位となった。浜田六段は、第三回大会にも第二位の戦績をもっているが、そのときの優勝戦の宿敵麻田五段を破ったのをきっかけに、得意の小手を主とし優勝戦に進み、熊本の強豪根木七段と対戦、中段からの飛び込み面を決めて快勝したもの、なお同六段は小手が得意だけあって左の方も立派な腕前である。

浜田六段が宿願の全国優勝をなしとげた。これは実にたのしい制覇といえる。しかし、それまでの努力はなみなみならぬものがある。昼間は子供たちの尊師として教壇に立ち、少しの寸暇をさいての訓練の連続である。▼鉄は赤いうちに打てとか、いままでの訓練が実を結んだといえる。この道のみのことではないが、そこが終着駅ではない。まだ遠い彼方にまちうけている。いままで追う身であったものが、これから追われる身となる。これからの鍛練が大切だ、ますますみがきをかけ猛者たる地位を長くかちとってもらいたいものである。



▼来月は選挙の月だ。公明選挙の名に恥じぬ努力をお互がつもう、だが、選挙戦は九割までは終ったと、候補者とみなされる人たら自身もいっている。しかし、あと一割の時期が公明選挙か、不公明選挙になるかの境い目になるのだろう。▼だまそうとする候補者もあろう、金で釣ろうとするものもあろう。五十万円いや百万円はいるだろうと口ばしるものもいるこれでは金持ちだけの選挙戦になりかねない。法定選挙費の二十七万円也では苦しいだろうが、できるだけの努力をしてもらいたい。▼ましてどうしてだますか金をばらまこうかと考える前に、候補者自体が、市政に対する力りょうを正々堂々と発揮するよう努力してほしい。▼こちらもだまされないだけの信念と勉強をつみ、公明選挙の推進に努力しよう。